

# コース27 たてやま 立山

リーダー CL N/S SL E/S  
 実施日 令和元年8月3日(土)、4日(日)  
 天候 2日間とも晴れ グレード C  
 参加者 16人(男性 6 女性10)  
 コースポイント

鹿島槍ヶ岳からご来光



ポイント	到着時間	出発時間	備考
3日 秋葉区役所前		5:30	新津駅経由、立山国見P 2,350mで剣岳を一望
室堂BT 2,450m	10:30	10:45	登山準備をした後、全員ストレッチして出発
室堂平・みくりが池	11:15	11:50	浄土山から立山連峰を見ながら昼食を摂る
浄土山登山口	13:00	13:06	山景と花に癒されて急登な岩場を頑張り上る
浄土山 2,831m	14:40	14:50	青空と山全景が眼前に見え、みんな満面の笑顔
4日 一の越山荘	15:30	3:35	明日4日の夜明け登山の準備と早く就寝
雄山頂上 3,003m	4:45	5:45	鹿島槍からご来光。雄山神社峰本社に参拝
一の越山荘 2,700m	7:15	8:45	三の越で男性4名が1時間人命救助に努めた
室堂BT	10:45	11:00	立山自然保護センター見学。雷鳥展示に興味
立山吉峰温泉	12:20	14:00	ゆっくりと入浴し食堂で食を摂る
秋葉区役所前	17:45		新津駅で解散

## 山行等概要(幹事のコメント)

- 猛暑続きの中、立山は2日間とも晴れて日中は21℃と快適でした。3日の浄土山は汗もそれ程でもなく天空の快適な山でした。翌4日は一の越山荘から夜明け前に立山へ寒くなくヘッドライトと赤色マークを頼りに岩場を上り、日の出4時58分前に15名が山頂に到着。
- ご来光登山を終えて雄山を下山途中「三の越」2,880m付近で心肺停止状態の女性に遭遇。救助員が来るまで救命処置を441 M/Nさん、1722 T/Hさん、1428 S/Iさん3名の方達と私(見守り役)がAM7:05頃まで約1時間あまりしました。
- その間、我が隊は平常通り1315 E/Sさんを先頭に女性陣9人(1人山荘で待機)とラストに1754 H/Oさんとで黄色マークに沿って慎重に下り無事に一の越山荘に到着しました。
- 担当幹事にとって一番うれしいことは、楽しく、感動していただき、全員何事もなく無事に帰れたことです。感謝!感謝!



# 「立山山行」に参加して

1723 K/H

立山に参加を決めたのは、雷鳥に会えるかもしれないという期待と連日連夜の灼熱地獄からの脱却であった。しかし、小心者の私は、申し込みをしてから皆さんについていけるかな？ 転がり落ちはしないか？ などと心配になり、イメージをつかもうとNHK 百名山「立山」を見たため、更に不安になってしまった。

1日目 5:20 集合時間の10分前余裕の到着だったが、驚いたことに皆さんやる気十分ですでにスタンバイ状態。

お天気も良く、予定通り区役所を出発。車中、LLが日程変更と下山時は、危険なのでストックは使用しないように、安全登山で事故のないようにと注意説明。うっかり者の私を見ながら言っているようで思わず目御伏せてしまった。

9:20 立山有料道路の入口に到着。気温表示は16度。車中、巨木の立山杉や称名滝に感激しながら観光バスは、ぐんぐん登る、低木地帯になり雲が眼下になり、大迫力の大日岳、剣岳、立山が、次々と私達を迎えてくれた。LLが、このような晴天は、滅多にないといきはからいで室堂の手前でバスを降り、剣岳・立山を背景に記念写真を撮る。

11:00 標高2450Mの室堂に到着。靴を履きかえ、準備体操を済ませて、玉殿清水で喉を潤し立山連峰をバックに記念撮影。気分は登山ムード、逸る気持ちを抑えまずは絶景に囲まれての腹ごしらえ。昼食後、早めに浄土山に登ることになる。石畳の足元を気にしながら、両脇に咲くチングルマ、コバイケイソウなどの高山植物の群生に心ときめく。思わずNHK朝ドラ「なつぞら」の主題歌を口ずさむ。登り始めは、涼しかったが、太陽に近いせいか日差しは強い。

浄土山の急登を目前に休憩をし、飴、ぶどう及び非常食で英気を養う。

SLのペースでゆっくり浄土山急登に登るが、空気が薄いためか疲れやすい。時折SLが、息を吐いて！と声を掛けてくれて助けられた。登るにつれて室堂ターミナルが小さく見えもう少して頂上だ。前の班の到着した声が聞こえる。漸く浄土山到着。



国見Pで剣岳と立山連峰を背にして



立山の石碑前で



立山玉殿の湧水



チングルマと立山連峰と一の越

目前に雄山、右手に後立山連邦の絶景が現れる。雄山から登山者が次々と降りてくるのが見える。足元はタテヤマリンドウ、イワギキョウ、線香花火のようなイワツメクサなどの高山植物の群生。勿論、ここでも記念撮影。あとは宿泊する一ノ越山荘に向かうだけなので、ゆっくりと足元を注意しながら下山。



浄土山山頂付近を歩く皆さん

山荘に到着し、着替えて、夕食。背後の賑やかなグループは、韓国人らしい。日韓の情勢が問題になっているときにもかかわらず、立山登山に来てくれるのは喜ばしことだ。

夜、満天の星空を期待したが、雲があるためかよく見えなかった。残念！

明日に備え寝床につくがドアを閉める音が気にかかり中々眠れない。同室の人によると熟睡して居たとの事、疲れていたのか？



明日登る雄山を見ながら一ノ越山荘へ

2日目、3:00頃起床。トイレと着替えだけなのに時間のたつのが早い。雨具か？ウインドブレーカーか？外に出て寒かったので雨具を着ることにした。



ヘッドランプを頼りにご来光登山

3:40 雄山ご来光登山開始。SLのペースでゆっくりと登る。ヘッドライトを付けているが、薄暗い。寒いと思い雨具を着たが、急登なので汗ばんできた。休憩でウインドブレーカーに着替える。

4:40 雄山到着。昨日、不安な眼差しで見上げた頂に漸くたどり着いたのだ。



雄山神社で参拝

黒いシルエットの雄山神社の脇、後立山連峰からゆっくりとオレンジ色のご来光が昇る。とても文章では表現できない素晴らしさだ。私は、山頂で十分と思っていたが、全員で雄山神社に昇ることとなった。神社は、頂上の先、階段数段しかないように見えるが、断崖絶壁の岩山の上にある。先のグループが下りてきたら私達の番だ。足を踏み外さないように、転倒しないようにドキドキしながら慎重に登る。

ついに雄山神社（3003M）の頂にきた。神主さんにお座りくださいと言われ、柵もないのに大丈夫か？全員座れるのか？と心配になり、私の体は、自然に端を避けて中央付近に座る。新津ハイキング15名うまく収まっていた。ご祈祷とお神酒を頂き、



雄山山頂で記念撮影

清々しい気分となり、神妙に雄山神社を下りて鳥居前で記念写真。

この頃は陽が昇り、槍、穂高もうっすらと見えた。雄山を下山する前に再度、LL から時間は充分にあるので、くれぐれも注意して降りるようにと言われ下山を開始する。

少し降りたところで、おーい、おーいと呼ぶ声がした。誰か倒れているようだ。近づくにご主人らしき人が、奥さんらしき人に大声で呼びかけていた、意識がないらしい。LL 及び班長が残り、心肺蘇生の手助けをすることになった。私達は SL について下山することになる。何とか助かってほしいと祈る。班員達は全員が無事に下山しなければと心を一つにしていたと思う。私は、途中、慎重に降りたつもりだったが滑ってしりもちをついしまった。ベテランIさんに頭は大丈夫！と声を掛けられたが、幸い両手で岩をつかんでいたので大事には至らなかった。

6:45 一ノ越山荘到着 体調不良で待っていた S さんに全員ハイタッチする。その後、LL 及び班長達が、下山してきた。雄山神社の社務所から救護者が AED を運んできて対応し、また室堂より救助隊がきたとの事により任せることにしたとのこと。

LL 及び班長が山荘到着後、少しして、救難ヘリの音がした。救助搬送したと思われる。他人ごとでは無いと気を引き締める。

朝食後、室堂に下山する。さすがに夏休みの日曜日とあって、途絶えることなく登山者が登ってくる。合宿とみられる小中高大学生、親子ずれ、中高年、外国人など。

LL 及び SL の判断でご来光に変更して良かったと思う。これらの人々と登ったら、雄山は、渋滞になりそうだ。日差しも強くなり、体力を消耗する。

9:55 いくつかの雪渓を横切り、花畑の室堂に到着した。昨日、最初に立ち寄る予定であった立山自然保護センターで立山の動植物の解説を視聴後、立山の山々、可憐な花々、なんといっても涼しさに後ろ髪をひかれながら、温泉に向かう。朝早かったので、心地よい眠りに落ちる。しかし、バスを降りた途端に暑さが襲ってきて、現実に戻った。

雷鳥に逢うことはできなかったが、本当に素晴らしい山行であったと思う。そして、いつもながら LL、SL 及び皆さんのおかげで、無事山行できたことを感謝いたします。



雄山から注意して下山。右奥に大日岳



「一の越山荘」と昨日登った浄土山



下山前の「一の越山荘」前で



富山の小学生がこれから雄山登山だ！



室堂へ。日曜で登りの登山者多し

室堂へ。日曜で登りの登山者多し

● 出会えた花々



雄山頂上の花々



立山とチングルマ



チングルマ



ミヤマキンバイ



ヨツバシオガマ



イワイチョウ



コバイケイソウ



チングルマ



チングルマ



ウラジロタデ



ハクサンイチゲ



ミヤマダイコンソウ



ミヤマリンドウ



アオノツガザクラ



ヨツバシオガマとタカネウスユキソウ



チングルマ



ミヤマリンドウ



ヨツバシオガマ



コバイケソウ



チシマギキョウ



キオン



ハクサンイチゲ



雄山とチングルマ



タカネウスユキソウ



イワギキョウ



クルマユリ



トモエシオガマ



ムカゴトラノオ



イワギキョウ



ミヤマシシウド



ミヤマキンバイ